

需要を創造する

29年前のことを思い出した。静岡県磐田市の企業が無人ヘリコプター（以下無人ヘリと略す）を販売することになった。私が勤めていた会社も販売店となり営業担当者会議に招集された。当時の無人ヘリは自動飛行システムなど搭載されておらず、操縦者の目視による飛行であり熟練した技量が必要とされた。安全飛行はもとより産業用として売り出すには、他にも多くの課題を抱えてのスタートであった。

会議の中で事業責任者から「需要を創造する」との言葉が発せられた。無人ヘリを売

り込むといつてもすぐに買手が現れるわけでもない。認知度も低い。当人は無人ヘリに関わる情報の広報が仕事であり、需要を創造することが第一歩であった。

今回、寄稿の要請があり改めて国見町を考慮することになった。太田町長が就任されて以降、大震災からの復興再生を中心とした活力あるまちづくりが強化されてきた。

新しい施策やイベントが今までに無く増加し、町の産業内外に発信されている。このような町の取り組みを見てみると、かつて自分が経験した無人ヘリの「需要の創造」に繋がるものがあるのではないかと感じ、当時を思い出しペンを執った。

今年5月には道の駅がオープンすると聞いている。また一つ、新しい情報と交流の拠点が生まれ運営されることを期待している。



佐藤 和夫さん  
(第3町内会)

あつかし歴史館がオープン



施設について職員から説明を受ける

総務文教常任委員会

1月11日、総務文教常任委員会で、前日の10日にオープンした「あつかし歴史館」を視察してきました。旧大木戸小学校が、歴史や文化の保存の場、地域の憩いの場として生まれ変わりました。

編集後記

今年も成人式が盛大に行われ、88人の方が新たに大人の仲間入りをしました。洋々たる前途を祝福いたします。成人式が文化センターのホールで行われるのは3・11大震災後2回目になります。大震災からの復興が着実に進んでいると実感できることの一つと言えるものです。

しかし、原発事故からの影響はまだまだ残っています。特に福島の農産物に対する評価は事故以前に戻っているとは言えません。一刻も早く風評被害が完全になくなることを望みます。

今年成人となられた方は中学2年生で震災の体験をしています。今では復興の兆しも見えてはいますが、まだ時間がかかりそうです。将来を担う若い世代に未来を託すとともに、議会もまちづくりに尽力していきたいと思えます。  
(浅野 富男)

- 発行責任者 東海林一樹  
議長  
広報常任委員会  
委員長 渡辺 勝弘  
副委員長 佐藤 定男  
委員 浅野 富男  
同 阿部 泰藏  
同 松浦 常雄  
同 村上 一